

## 第5回 第5次門真市学校適正配置審議会 議事録

開催日時 令和6年8月30日（金） 午前10時～午前12時

開催場所 門真中町ビル 会議室C・D

出席者 新谷 龍太郎、西 孝一郎、横山 俊祐、吉岡 眞知子、岡本 富男、勝川 喜美子、川村 早余子、小阪 和之、後藤 忠夫、日置 芳太郎、平生 眞悟、船越 叔美、本田 貴裕、山田 颯、植原 宏仁、脊戸 利子

事務局 水野教育部長、峯松教育部教育監、大倉教育部次長、渡辺教育企画課長、高岡教育総務課長、高山学校教育課長、宮崎教育企画課課長補佐、古川教育企画課兼学校教育課副参事、藤澤教育企画課主任

傍聴者 4名

### 議 事

#### ○開催 事務局

定刻となりましたので、第5回門真市学校適正配置審議会を開催いたします。

本日は台風の影響が心配される中、ご出席頂きありがとうございます。本日、司会を務めます、教育部教育企画課の藤澤と申します。宜しく願いいたします。

本日は、18名中16名がご出席されており、門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則第5条2項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。

本日、藤田委員、邨橋委員はご都合がつかず、欠席となっております。

なお、本日傍聴者が4名いらっしゃいます。

また、横山会長と新谷委員は天候の影響などもあり、Web会議システムを活用した会議場外からの出席となります。

本審議会では、新たな試みですので、通信環境等の影響で音声や映像等に乱れが生じる場合もありますが、ご了承をお願いいたします。

次に、お手元の資料の確認をしたいと思います。

1点目 会議次第

2点目 資料1 第4回審議会のふりかえり

3点目 資料2 第4回審議会ワークショップを踏まえた門真市立学校のあり方について

過不足ございませんでしょうか。

それでは、本日の以降の進行は、副会長である西委員にお願いしたいと思います。西副会長よろしく願いいたします。

副会長

皆さんおはようございます。本日もお集まりいただきありがとうございます。それでは早速ですが、議事次第に従いまして進行を進めさせていただきます。

まず、第1の議題ですが、前回のふりかえりということで事務局より説明をお願いします。

## 事務局

それでは、私から案件1.「第4回審議会のふりかえり」について説明をさせていただきます。

資料1をご覧ください。まず、「学校再編にあたっての基本的な考え方」について事務局より改めて説明させていただいたのち、前回新たに⑥を追加しました。⑥は、門真市全体の学校の将来像や場合によっては必要に応じて、校区再編等も検討するといった旨です。こちらを追加したことをお伝えさせていただきました。

次に、WSに移る前に、門真市の人口増減について事務局より、説明をさせていただきました。全体的には減少傾向であるものの、最新の速報値などでは、若年女性の人口が増加しているなど、今後に期待できるような情報もお伝えしました。

続いて、WSについてです。

A B Cそれぞれの班でどのような意見が出たのかなどを簡単にお伝えできればと思います。

まず、A班についてです。A班は、事務局が目安としてお伝えした、令和20年頃というよりも、最終形（A班では、1小1中）をイメージして議論をされました。また、子どもたちの安全面を考え、163号線を一つの目安として再編等を考えたかどうかの意見もありました。1小1中というのは、かなり先の将来になる可能性はありますが、例えば、市内の中央付近に徐々に学校を再編していくなど、A班の視点も持ちつつ、再編等を検討していただけたらと考えております。A班については以上です。

続いてB班です。B班は、より具体を考えてくださりました。なお、校区については、現状の校区を変えず、6校区それぞれに1小中一貫校の考えのもと、優先順位等も含め検討をしてくさりました。優先順位については、まず、①二中校区⇒そして、②三中校区⇒③七中校区⇒④五中校区といった優先順位であったかと思えます。また、小中一貫校を仮にこれからも建てていくとするならば、今回の（仮称）水桜学園の取組や実態等は非常に重要になるとのご意見もいただきました。さらに、もし建物の高層化が可能になれば、古川橋小学校についての通学先（再編先）も見直せるのではとの意見も出ました。B班については以上です。

最後にC班です。C班もB班同様、優先順位を付け検討してくさりました。

優先順位は、まず、①門真小学校区周辺 次に、②沖小学校区周辺 そして③二島小学校 でした。また、このどれも小中一貫校としてはどうかというご意見でした。そして、それぞれの学校をブランディングすることで、特色のある学校にできないかという旨のご意見もありました。さらに、一貫校にするだけでなく、もっとそこに地域と連携した取り組みや地域が学校に入れる仕組みを検討す

る必要があるというご意見もありました。以上がC班の意見です。

本日は、この内容なども踏まえた上で、事務局より将来像の案をお示しさせていただき、その後、それをもとにご議論をいただきたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。

第4回審議会のふりかえりについては以上でございます。

副会長

何かご意見ございませんか。それでは、ご確認いただいたということで、次に行きたいと思います。

副会長

先ほど、事務局のふりかえりの際にも説明がありましたが、各グループの意見を踏まえ、事務局が前回のワークショップを踏まえた将来像の案を考えてきているとのことですので、そちらを説明していただけたらと思います。

事務局

教育企画課の渡辺です。お手元の資料2をご用意ください。

前回、ワークショップ形式で皆さんに3つのグループに分かれて議論いただいて、正直なところ、3つの案を1つにまとめるというのは、多分答えにならないというか、本当に皆さんいろんな視点でそれぞれお考え頂いたなという風に思っています。

そして、極端なところでいくと、やはり将来、今後子どももまだ減っていくという推計の中で、最終1小1中まで検討を進めなければいけないという意見と、中学校区を6つ残すという、1番地域の方々も大きな変動がないような形で進めていく方が良いのではないかというような、極端なご意見が2つ出たのかなという風に思っています。

もう一方では、どこかに特色のある新しい学校を作って、尖った形で考えていくのも良いのではないかということで、全ての案が正解だと思いますし、どれが1番良いということではないのかなという風に思っています。

その中で、この審議会として皆様に1つの合意案を作って頂くために、少し教育委員会の現状の考え方であるとか、皆様のご意見を踏まえた進め方の提案という形で、今日はお話しさせて頂きたいという風に思っています。

資料の1枚目は、これまでもお示ししてきました今の門真の学校周辺の状況、学校がどれぐらいの人数なのか、規模なのか、それから周辺のまちづくりがどう変わっていくのかという情報をまとめたものです。新しいものではございません。資料の2枚目をお願いします。

繰り返しになりますけれども、少し今までの議論を整理させて頂いております。上の3つの黒丸キーワードは人との繋がり、門真の子どもたちのために何が良いのか。そして、魅力的な学校づくりをすることで地域の活性化やまちづくりにもつなげていきたい。この辺りは前半の議論で皆様とも確認をしてきたところで、議論の中でもワードとして出ましたけれども、どちらかという、今後めざしていく門真の教育、言わば教育論になるところかなと、ここについては皆

様ある程度合意ができているのかなという風に思っています。今後の再編論のところで、下3つのところが今回提案という形で整理をさせていただきます。

先程も申し上げた通り、児童生徒数は現状では減少傾向にあるということは変わりません。そして、将来像を見据えて考えるというのが今回の審議会のテーマであるとも思っています。という中で、学校施設を建てていく中で、今学校がないところに、自宅、住宅になっているところに学校をどんどん建てるとするのはやはり現実的ではないという風に考えていますので、ある程度、今現状学校があるところからどういう風に再編していくのかという視点は欠かせないのかなと思っています。その中で、通学距離であったり、これまでの分離統合の歴史であったりとか、優先順位の状況とか、子どもの数の状況を見ながら再編を考えていく。これは、今までやってきたことでもありますし、今回、皆様の頭にもある考え方かなと思っています。一方で、子どもが減っていった時に、何校学校があれば良いのかというところでは、極論、1小1中で十分足りるのではないかなというような答えになるのかなと思っています。1小1中であれば、おそらく真ん中あたりに学校があるのが1番良いだろうということで、前回も中心に最終良い学校ができたそれが良いのではという議論もあったと思います。というところで、両極端というか、今から考えるのと、究極の最終形から考えるというのは、どちらのルートもあるのですが、今回どれぐらいのスパンを考えるかという中で、1つのめざしていただきたいところは、やはりこの間になるのではないかなという風に思っています。どちらの意見も、どちらの視点も必要なのですけれども、ある程度順番に進めていくという意味でいくと、この中間、どの辺りを今回の1つの答えとするのかというところを最終ゴールとして1つ見極めていただきたいということが4つめの項目でございます。

5つめの項目は、どれぐらいの規模をめざすのかということで、第1回目、第2回目の審議会の中で、小学校が単学級になっていくというところについて課題があるのではないかなというような話がありました。その時にも、当然、単学級が悪いとか、クラスが多いから良いという話ではないものの、やはり学校運営していく中で、1クラスというのは非常に課題があるというような話も出たかと思えます。その中で、3クラスぐらいが運用しやすいという意見が出されました。審議会としては、その辺りが1つの目標になりますよねというご発言をいただいているところがあります。小学校については、3クラスというのが出たのですけれども、中学校については実はあまり触れられていないのかなという風に思います。

最後の項目です。今門真市では、小中一貫教育を進めていくということで、昔は、皆さんご存知の通り、小学校区と中学校区というのはそれぞれの考え方で組まれていました。今はまだ整ってはいないのですけれども、一応形としては、全小学校区は全中学校区に包含されるということで、同じ小学校を卒業した子は同じ中学校へ通うというのが、20数年かけてようやく辿り着いたところでございます。そういうところを引き続き継続していきたいという風に思っていますので、小学校の再編を考える上では、やはり中学校の再編というか、中学校区エリアをどう設定するかというのが実は大きなキーワードになるというところがございます。現状の中学校区を前提に考えるという訳ではないのですけれども、小学校の再編

を考える上で、必ず中学校の再編も一緒に考えていただかないと、この小中一貫というエリア設定ができないというところが、今回1つ、教育委員会の方からご提案する1つのキーワードになります。というところで、少し整理させていただいたところです。3ページをお願いします。

中学校の規模は、どのあたりに設定するのかということで、標準規模というのが一定整理はされています。中学校の標準規模は、4クラスから6クラスというところにございます。中学校につきましては、これも皆様、地域の実情を知っていただいているのかなと思いますが、4クラスから6クラスに満たしているのかというと、非常に厳しい状況にあります。実は中学校の方が切実な状況にあるというのも、今回改めてご認識いただければと思っています。小中一貫教育をベースにする場合は、中学校の配置の方がエリア分けに直結する、これは先ほど申し上げた通りです。この下は理論上の数字ですので100パーセント信じなくても良いんですけど、令和6年度の門真市の中学生は2237人です。学級数が65なので標準規模の1学年4クラスで3学年ありますので、標準規模の学校というと、12学級以上ある学校という風に一応定義されます。その状態でいくと、現在12学級ある中学校は6分の3です。要は既に3クラス以下になっている学年がある学校があるということです。今推計できる、令和12年時点の中学生がどうなるか、あくまで推計上の数字ですが、生徒数1936人で学級数54という推計です。そして6中学校、12学級以上ある学校はどれだけ残るかということ、0です。要は、6年後には12学級以上ある中学校は無いというような状況になります。学年4クラスから6クラス、標準規模と想定すると、大体450人から600人ぐらいの規模になるのですが、ざっくり割り算すると、門真市では3校ぐらいで事足りてしまうというのが実情です。ただ、小中一貫校、義務教育学校の概念が入ってくると、小と中の学級数は一緒になるので、中学校は仮に6クラスという設定をすると、小学校も6クラスになってしまうとかいうこともあって、義務教育学校については小学校のクラス数がそのまま上がっていくということで、少し小規模になるような実情もあります。(仮称)水桜学園のこともありますので、規模的には3から4ぐらいを1つの目安にしなければならない。これは令和12年で考えてもこのような状況です。議論にもありました通り、今後さらに減っていくと考えると、現状5とか6という中学校を残すという答えが良いのか悪いのか。それが悪いということではありません。ただ、令和12年でも小規模校ばかりになるということを教示していかなければいけないというようなところになります。1つの根拠資料として、次のページです。

各中学校区の今後6年間の学級数、児童生徒数の見込みということで、各学級数の予想推移が黄色になっているところがいわゆる3クラス以下の学級です。そして、既に3クラスになっている中学校もあるので、現状の色々な状況もあるのかなと思いますけど、やはり特に第七中学校ですね、もう数年後には2クラスという数字が出てきます。私自身も、中学校の時には5クラス、6クラスまであった時代ですので、中学校2クラスは衝撃的な数字だなという風に思ったりもします。もし6つ中学校を残すということになると、この第七中学校のように各学年2クラスの中学校を残していくというようなことになるというところを、今回は、情報としてご提供したいというところでございます。

次のページをお願いします。続きまして小学校です。小学校については、単学級かそうじゃないかというところで、今、2クラスあるいは単学級があって、2クラスと1クラスが混ざっているというような学校がほとんどです。門真みらい小学校と水桜小学校が3クラスあるというような状況ですけれども、前回までの議論の中で、3クラス程度が1つの目標ですねということであるならば、どういう風な学校数になるのかというのを計算してみました。令和6年度では4162人の児童がいます。12学級以上、全学年2クラス以上ある学校というのが、12校中8校。統合が決まっている四宮小学校と北巢本小学校は1校で計算しています。そのうちの8校が12学級以上ある学校なので、4校は単学級が発生しているという状況です。そして6年後にはどうなるかということ、それが8校になるというところで、12校学校あるうちの8校で単学級が発生しているというような状況です。ここには四宮小・北巢本小の統合校、それから、水桜小学校もこの12校には入っていますので、それを除くと残り2校しか12学級以上無いという学校で、今の既存の学校については、ほとんどが単学級になっていくという推計です。今現在2クラスか1クラスかみたいな現状ですけれども、3クラスを仮に1つの規模とするならば、小学校については、概ね6か7ぐらいの学校があれば、その学校も3クラス程度の学校になるという1つの目安でございます。これも、6から7にしなければならないと言っていることではなくて、1つの目標としての3クラスを維持するならば、今の学校数13、令和8年には12からどこまで再編が必要なかというところで1つの目安としていただければなと思っています。ただ、全ての学校が一律に同じ人数になるとは思っていませんし、当然、地域のエリア設定も変わってきますので、80の学校もあれば120の学校もあればということになると思うのですが、単純割で、今の門真市の児童数と学校数のバランスを考えると、3クラス設定であれば6から7というところで情報提供させていただければと思います。

続けて次のページをお願いします。これまでも今回学校再編するにあたって、何故再編していくことが必要なかというところで説得できる材料が欲しいというようなお話もありました。教育委員会としてもやはりここは大きな課題だと思っておりますので、改めて少しご説明というか、情報提供させていただければと思います。

児童生徒数に比べて学校数が多い状態、いわゆる小規模校の学校が多い状態が続くことによって、何が課題なのかと。規模が小さいから悪いということではないというのは、もう皆さんご認識いただいていると思うんですけど、割合として学校数が多すぎる時に何が起きているかということ、1つの学校にかける資源が分散しているということかなという風に思っています。あくまで可能性であり悪いと言っている訳ではありません。今までの議論との継続ですけど、1つめが人の繋がり。子どもたちが単学級になっていてクラス編成ができないとか、やはり1学年で関われる人数が少ないというのは、子どもたちのまた同学年、異学年との関係性が少なくなってしまうということで、ある程度学校として規模が大きくなると、関わる子どもたちが増える、大人も増えるということで、人との繋がりも今分散してしまっている状況にあるのではないかとというのが1つめです。

2つめが教職員の配置です。教職員の配置は、児童数または学級数によって、

定数というのが決まります。一般の教員も、何学級以上あれば、先生が何人入るとかというのが基準で決まっていますので、子どもが少ないと、その学校に配置される先生も少なくなるというのが基本的な考え方です。一例として、いくつか書かせていただきましたけども、例えば、栄養教諭であれば、550人以上の学校であれば、1名配置。ただ、550人未満の学校であれば、つかないというような職種もありますし、養護教諭、事務職員なのかは、必ず1人はつきますけれども、一定以上の学校の規模になると2人目がつくとか、そういったことが基準としてあります。もう1つ、特に中学校ですけれども、中学校の先生は教科の専門があります。ただ、学校に配置される先生の数というのは、教科とは関係ありません。要は、中学生が何人いるか、学級がいくつあるかで、先生の数というのは決まります。そこに対して先生が配属されるんですけども、それにちゃんと教科を揃えて配置をしないといけないということになります。なので、偏った教科ばかりを配置することはもちろんできませんし、1つの教科の先生が少なくなるというのが実態です。通常よくあるのが、例えば国語の先生であれば、3年生の国語の先生、2年生、1年生、それぞれ国語の先生がいるというのが基本ですけども、例えばどの学年も学級数が少なくなると、2学年を1人の先生で見てくださいというようなことが起こります。というのが、下に書かせていただいている教員が本来1学年の授業を受け持つところを複数の学年を持たなければいけないということなんです。また、小学校では、2クラス、3クラスあると、例えば、その学年の先生で相談をして行事を決めたり何か対応していくのですが、単学級だとその学年の先生は1人しかいないということで、その1人の先生が全てを受け持つなければいけない。先生の配置の数もそうですし、その受け持つ所掌についてもやっぱり1人1人の負担が大きくなっていく。教職員の配置も学校の規模があまりに小さいとどうしても少なくなってしまうと、ただ、学校数は多い状態ですので、それぞれの学校でやらなければいけない総量は増えていると。同じことを全部の学校でやっている部分ということで、1つの学校であればまとめて効率的にできるのに分散してしまっている。門真市の限られた先生の数ですけども、それを各学校に分散して配置しないといけないような状態があると、このようなことが起こるといえることです。

そして3つめ。これも皆様イメージしやすいと思いますけれども、施設の維持コストが分散されてしまうということです。各学校、修繕とか改善を同じようにしていきたいと思いますが、限られた予算の中でそれを全ての学校に分けていくと、どうしても1つの学校にかけられる額が少なくなったりとか、順番待ちが発生したりとか、今まさに起こっていることだと思います。学校数が適正になれば、回ってくる順番とか、その1つ1つの学校にかけられるコストというのは、ある程度今よりも集約できる。どうしても時間やコストというのが分散しているというのが1つの課題なのかなという風に思っています。

次に4つめです。人的資源ということで、校区が学校数と連動してきますので、校区にいらっしゃる人材もやはり今分散している状態にある。門真市という小さくくりの中で、校区での活動を皆さんされていると思うんですけども、やはり限りある地域の方々の人的資源っていう意味も含めると、やはり分散しているというのは、学校が多いことによって分かれているということも考えられるの

かなという風に思っています。

そして、5つめ。行事です。運動会とかいろんな宿泊学習とかというの、人数がいればいるなりの考え方、少なければ少ないなりの考え方っていう風になっていきます。先ほどの先生の数も少なかったりとか、集められるお金の数も少なかったりとか、色々なところで規模感が出てきますので、やはり行事ごとについても、あまり規模が小さくなると、どうしても選択肢が限られてしまうとか、チャレンジしにくいということも起こっているのかなと。

これは全て可能性ですので、絶対こうなるという訳ではないんですけど、小規模な学校がたくさんあっても良いじゃないかというところに対して、何故それがダメなのかというところの1つの可能性として、こういった課題が実際に教育委員会として学校運営を考える上ではやはり課題なのではないかなという風に考えているというところでございます。

ということで、一定数の学校規模を維持するという事は、限りあるコスト、それから人的資源、先生の配置ということを集めることができ、教育の質の担保、維持向上を保っていけるのではないかとこの風に考えているということで、やはり再編というのは1つの手段として考えていくべきだという風に思っているところでございます。小学校については、今皆様で出している3クラス程度、中学校については4から6クラス程度というのが、現時点では適切に設定される場所なのかなという風に考えています。

ここからはさらに情報提供です。もう1つの観点として、施設のことを改めてご説明したいと思っております。これも第1回目の時にご説明していますので、そうだったなという風に思っただけであれば良いのですが、再編をこれから考えていく上で、教育委員会の課題点です。古くなった施設をなんとかしていきたいというところでございます。小学校の一覧表を見ていただいていますけれども、7ページです。丸がついているところは一応50年以上経過をされていて、一度も大きな手が入っていない学校です。それ以外は、今後新築予定であったり大規模改修を一度やっているということで、何かしら大きな手が入っているというところで、丸がついている古川橋小学校、大和田小学校、門真小学校、上野口小学校、二島小学校に関しては、何らかの形でやはり大規模な修繕や建て替えを検討しなければいけないと思っています。今回の再編にあたって、この学校を再編して綺麗にするのか、そのまま維持して綺麗にするのか、この辺りの1つの分岐点になるというところで、優先順位としては教育委員会として上げていきたいというところで、改めて少し情報提供させていただきたいと思っています。続きまして、中学校です。中学校も6校ですので、皆様そうかと思っただけだと思うのですが、同じように手が入っていない学校、二中、三中、七中、この3つです。はすはな中学校は新築しておりますし、第五中学校は平成27年～28年に大規模改造で、第四中学校は今回、(仮称)水桜学園ということで新しい校舎ができるという想定になっておりますので、この二中、三中、七中というところにもどのような形で改修をかけていくのかということも考えなければならないというか、最も切迫している状況にあるというところですので、この小学校、中学校の施設の状況も踏まえながら、今回の再編の中で一定答えを出していきたいという風に強く思っているところでございます。

最後は9ページ、これは教育委員会としての情報の最後です。今までのお話のまとめです。校舎の状況、それから児童生徒数の現状から、改めて今の既存の学校の優先順位のことを考えると、この辺りが1つ、校舎なり子どもの数を考えると優先度を上げていかないといけないと思っている学校ということで、この先の議論の1つの情報として、お持ちいただければありがたいなという風に思っています。

ここまでが、前半として、教育委員会としての課題認識と、改めて情報を提供したい部分でございます。

そして、ここからは、この先、皆様に議論を進めていただくための提案ということで、1つ議論をさせていただきたいと思っています。

将来に向けて、前回のワークショップで議論いただいたところを少し揃えていくようなお話をさせていただきたいと思っています。11ページは、現状の学校配置です。12ページをご覧ください。少しぼやけた丸をいくつか書かせていただいています、門真市のエリアをどういう風に将来考えていくかというところで、シンプルに中学校区という風に見ていただいてもいいかなと思います。現状6中学校区あります。現状とぴったり合う丸の作り方が難しく、綺麗にはまっていないですけども将来6エリアを残すということになると、中学校区については今と似たような形での6エリアを残していくということになります。小学校は、この円の中に1つあるのか、2つあるのか、小中一貫校になるのかという選択肢は色々あると思うのですが、中学校部のエリアとしては6個残すと。そして今の形にこだわらないという意見も出てきていますので、もしかすると、校区については、少し変わっていく可能性もあるかなということで、あえて重ねたまま作っています。

13ページと14ページをご覧ください。こちらが6エリアではなくて5エリアにするなら、どういう校区割りになるかというイメージ案でございます。仮に5というエリア設定で行くならば、今の6から、どこどこあたりを1つにしましょうかというような話になっていくのかなという風に思います。

次のページをご覧ください。では5エリアではなくて4エリアで考えたらどうなるのか。こちらもかなりぼやけて大きく書いていますが、163号線があったり、門真市の形状を考えると、大きく東西南北で4つに分けられるイメージかなと思いつながら、縦長に4つとかもありますし、今の校区をどう再編するかによってどこまでの形になるかというのは変わってくるのですが、要は中学校区として4つぐらいという風にセットすると、エリア的にはこれぐらいの規模になるということです。重なっているのですが、少し分かりにくいですが、ある程度の範囲をイメージしていただければいいかなという風に思っています。

次のページをご覧ください。では3エリアだったらどうなのかということで、こちらは今の中学校区をある程度想定しながら、1つの案としてはこんな形かなとか、次のページのようにまた違う形も考えられるかなとか、これは教育委員会の中で色々シミュレーションしながらですけども、3エリアだとしたら、やはりある程度校区は広がるなというイメージもありますし、どう割り振るかによって子どもたちの動線も変わってくるというのを考えながら、エリア設定してみた形です。

次のページをご覧ください。続いて2エリアです。2エリアで行くと逆に今度は分かりやすくなって、南北である程度エリア設定するか、次のページのように東西である程度考えるのかということで、それ程大きな異論はないのではないかと考えています。

そして最後です。1エリアの場合は、やはり真ん中あたりに学校がある方が良くと思います。それは多分皆さんあまり変わらないのかなと。学校が1つだけど端で良いというのはあんまり考えられないと思うので、もし1つをイメージするならば、やはりこの辺りをどう学校として残していくかというのを考えないといけない。少し戻っていただいて、2つだとすると、今度逆に真ん中というよりは、真ん中よりも少し東西あるいは南北っていうところに中心地が来るということで、メインになる学校配置がやはり少し違います。真ん中に1つというのと、2つだとしたら真ん中じゃないというようなところもあって、この辺りはやはり今回議論いただいたみたいに、しっかりと考えた上で、どこをある程度想定して今回の学校配置というのをこの後議論するのかというところで、あえて6から1まで作ってみました。当然、これ以外の案もありますし、エリア分けについてはそうではないという意見もあると思うのですが、委員の皆様にも共通のイメージを持っていただくという意味で作りました。

最後のページです。今回、委員の皆様にも、どの辺りのエリア分け、中学校区の再編を1つの答えとしてイメージしていただくかというところで、前回の議論を見させていただいて、やはり皆様の頭の中に色々差があるなという風に思っています。というところで、最初の話の繰り返しになりますけれども、現状から考えるという視点と、究極、本当に子どもがいなくなった時のことも考えるというところで、今回の答えについては、この間のどこかに設定をしていただく必要があるかなという風に思っています。なので、20年後ぐらい、先ほど出ていました令和12年というのは6年後ですけれども、その時点で少なくなっているという状況はありますが、現在、(仮称)水桜学園と四宮小学校・北巢本小学校もまだ継続中です。こちらが終わっていない状況の中で、今回出させていただいた答えが来年、再来年に実現するというわけではありません。ということも踏まえると、優先順位をつけながら今後進めていくためには、今から決めても、やはり20年後ぐらいに整っていく感じになります。さらには、先ほどから1小1中が究極という話をしていますけれども、門真市としては、やはり1小1中になるようなまちづくりはしたくないと強く思っていますので、今後、人口減少の中でも一定どこかで規模を保てるようなまちづくりもしていく中で、50年後、60年後っていうのは今答えを出すべきでもないという風にも考えていますので、一旦、この間にある、大体20年から25年とか、令和20何年みたいなのところをイメージしていただいた配置イメージというのを考えていただくのが良いのではないかとということで、ここはご提案でございます。

ここから先はもう皆様にお任せしても良いのですが、最初にこちらから問題提起していますので、1つの考え方としてご提示させていただきます。こちら先ほどの繰り返しです。令和12年の推計を考えてみて、その後まだもう少し減少傾向は続くだろうということも踏まえると、少なくとも中学校については3から4、小学校については6から7程度まで再編していくというのが数字上は必要な

のかなという風に思っています。そのため、今のままの6中学校区でいいというところも含めて、改めて皆様の議論を進めていただきたいと。何度も言いますが、どれも、どれが正解とかどれが答えという風には思っていません。揃えていく必要があるという風に考えているだけですので、その中で、教育委員会として前回の議論、それから前半の議論をまとめていくと、こういったところで1つ情報を整理していく必要があるかなということを出させていただきました。ただ、義務教育学校、先ほども申しました通り、小学校と中学校で行くと、小学校が集まってきて中学校に行くという考え方と、全小学生はそのまま中学生に上がるということで、学級数が変わってきますので、必ずしも先ほどのこの4クラスから6クラスが適当みたいなことは当てはまらなくなります。なので、義務教育学校にするかどうかというところも、今回視点には入ってきますので、それは追加の視点としてトータルで考えないといけない。小と中、一旦別々で考えた場合には、規模的、学校数的には、先ほどの中学校では3から4、小学校6から7程度が1つ説得材料というか、こうだからこうなんですと説明をするのであれば、1つ目安になってくるのかなと考えています。先ほど来申し上げています、小と中が連動するということを見ると、中学校区をやはりエリア設定として考える必要がありますので、4つぐらいというのが1つの目安になるのかなということで、先ほど6エリアから1エリアに減らしていく絵を見ていただきましたけど、4というところの校区編成、これ重なっていますので、最終的にはどっかで区切らないといけないんですけど、どこがどのエリアに入るのかとかというのはこの通りでなくて良いので、ある程度4ぐらいっていうのをイメージした上で今後の再編議論をしていただいたらどうかということで、提案めいたものになっておりますけれども、ご説明させていただきました。長くなりましたけれども、以上です。

#### 副会長

ありがとうございました。今、子どもの数がどうだからもうすぐという風な提案が多い中で、もう少し先を見据えた、門真のまちをどうしていくのかというあたりも含めた大変大きな提案だったと思います。率直に委員の皆様の感想を聞かせていただいて、始めていきたいと思えます。

#### 委員

今事務局の説明を聞いて素晴らしいなと思ったのですが、市役所としてスクールバスなどは考えていないですか。

#### 事務局

エリアの設定によってはあるのかなと思っています。現時点で出しますということではないですけども、エリアの分け方によっては必要になる場面が出てくるかなという風に思っています。

#### 委員

私が通っていた中学校は三重県の山奥ですので、バスで1時間から1時間半も

かかって通っていきまして、今7つの学校を1つにするということが行われておりますので、それも1つ方法としてあるということと、私は大和田校区なんですけれども、運動会も今まで15時や16時まで行われていたので昼前に終わってしまうのが寂しいなど。それはもうどうしようもないことで、それはそれでそれなりに、皆さんで頑張ってお考えいただけたら良いかなと思っております。とりあえず生徒さんが減っていることは、私らが会議しても増えるわけではないのでね。それをどうするのが問題で皆さんで考えていただけたらと思います。

副会長

ありがとうございました。

委員

事務局のお話は非常に分かりやすく、大きな絵がまだぼやけてますけども、なんとなく見えてきた気がします。私の個人的な考えですが、教育の目的というのは、やはり子どもの幸せになるためにはどのようなことを教えるかと考えた場合は、事務局がおっしゃっていた色々な意見はその通りかなと思えました。1番気にかかっているのは、高層学校っていうか、今だと3階建てぐらいですかね、これを、例えば6階、7階にすればもう少し広いグラウンドが取れるのかなと。そしたら、もっと色々なおもしろい絵が描けると思いました。グラウンドがなければいけないということもありませんし、別のところに新しいグラウンドを設けてもいいでしょうね。そんなことを考えて、やはり子どもをど真ん中に置いた考え、地域もそれに対して、子どもを真ん中において地域政策、管理行事というか、考えていった方が面白いなど。そして、今は昭和じゃないですから、昭和の感覚を全部捨て去って新しいものを作るという感覚。例えば地域において、色々行事をやっていますけども、まだまだ昭和の匂いがぷんぷんしている。これは僕嫌いなんですけども、いきなり変えようとするともものすごい反発があります。そういった意味で、その反発を、なんとか乗り越えてやろうと思ったら、やはりリーダーの覚悟がより大事になってきます。そういった意味でも、教育もリーダーがもう思い切って大なた振る感覚でやっていかなければ、ちょこちょこ変えるんじゃないくて、一気にどんと変えなければ、塵が積もって山にはなりません。やはり一気に変えて、地殻変動を起こしてやらなければ難しいかなと思っておりますので、皆さんの新しい意見で考え、色々な意見を出した方がもっと面白い絵が描けるのではないかと思います。以上です。

副会長

ありがとうございました。今のご発言につきましては、大変新しい意見、提案ではないかなと思っております。

委員

地区配置で表を見させてもらいますと、学校の築年数、それから大規模改修、それについては大体50年ぐらいを目処に考えておられると思うんですけど、今から改修工事とか入って50年後にはどのぐらいの生徒数になってるのか、ど

のぐらいの規模が良いとかというのを示していただいたら、この編成というのも考えられると思うのですが。私はそういう風に感じました。

#### 副会長

今はなかなか試算難しいと思うんですけども、50年後ぐらいの情報は出ますか。国としては出していますが、門真市としてはどうでしょうか。

#### 事務局

そうですね、すごく難しいところで、今の減少率をそのまま50年後に当てはめると、多分本当に1小1中みたいな子どもの規模になると思います。そこが本当にそうなのかというところを、補正をかけて想定をしていかないといけません。門真市全体の将来の人口ビジョンということである程度出してはいるんですけど、校区ごととなると今は無いというのが正直なところなんです。なので、50年後の数字を示そうと思ったらできませんということではないんですけど、どういう数字でオープンにするかというのは、非常に難しいというか、それが1人歩きすることになるので、なかなか出しにくい状況ではあります。

#### 委員

そうすると、学校編成ありきで、待たないといけないということになるんですかね。

#### 副会長

私もその辺りが気になりました。日本の今の19歳以下の人口を調べてみたんです。ただ、今、2020年で2000万人となっていました。2060年までしか出ていないですが、2060年が1100万人、つまり半減ですね。ですから、今のお答えになっているかわからないですけども、すでに約40年後ぐらいには半減ですから、50年後は1校ではないですけども、半減ということを見ると、3校程度になる可能性はあります。日本の国の推移がそのままいけば、大規模改修を50年ぐらいのタイミングとかということも考えながらやっていければ、それはとてもすごい提案になると思います。次の方、お願いします。

#### 委員

私は第一次ベビーブームで、長女が第二次ベビーブームだったんですね。その時は生徒数も多かったんですけど、それからどんどん減ってきてというのが現状ですかね。それと、今中学のクラブ活動が、働き方改革で外部からコーチとか、呼んでするとか、その辺もなんか色々変わってきてるというんですか、生徒数が少なくなってきたからそういう風になったのか、その辺が心配です。

#### 副会長

ありがとうございます。僕も実は別でそのような会の委員をやっておりまして、今の点でいくと、もし地域を中心に人を集めていくということになると、やはり例えばエリアとか人材が必要になってくるかなという話は出ているところで

す。次の委員、いかがでしょうか。

#### 委員

私はその再編の話を聞いて、最終的な1小1中というのは本当に極論だと思うので、無いとしても、さっきのイメージ図を見た時に、2校に分かれる時に東西に分けるのか南北に分けるのか、そこはすごいポイントになるところだと思います。そこに行き着くにも、今の話だと、今話してることが反映されるのが10年先っていうことは、その2か所に分けるところまで行かないとしても、4か所に分けるぐらいのところに視点を置いて話す必要はあるんじゃないかなっていう風には思いました。そして、4か所に分けるとしても、その4か所の2つを、その東西で2つずつだと、多分東西に分かれることができるし、上下2つ取ると南北で分けることもできるので、そうやって見たら、本当に東西の真ん中辺りで区切るのか、南北は163号線の前後ぐらいで区切るのか、今ある校区図を、1回ラインをまず取っ払ってしまった上で、川とか大きな道とか、通学路を考えた時に、こんな感じのエリアが1つの校区になると子どもたちも通いやすいよねとか、区切りやすいよねとか、やはり違う感覚で、今私たちが思ってる感覚とか、その地域とか、第1回目の委員の自己紹介の時にも話が出ていたお祭りで神社とかエリアのこととかもありましたけども、それはそれ、子どもたちが学校に通うんだったら、子どもたちの環境はこれという感じで切り離して、今の私たち、私より上の人たちが考えていることが、じゃあ10年後にその考え方が、その今10年若い人たちが10年歳を取った時に、同じ考え方かという、多分違うと思うので、だから、その辺を新しい考え方で作っていく。その環境にこれですって、新しくそこに入る人たちはもうそれが知っている環境になるので、それが浸透していくんだらうなっていう風におもったので、やはり先を見据えた、今の校区ではない、4とか2ぐらいの先を見て、じゃあどうするという議論が良いかなと思いました。

#### 副会長

非常にこれも大きな提案だと思うのですが、4にするにしても、将来的な2を考えた時にどうよう4に持っていくのかという感じですね。また、今の校区ということではなくて、子供を中心に考えて、一体どのエリアが必要なのかを考えていくべきという大変大きな提案だと思います。次の方お願いします。

#### 委員

3つほど僕の感想ですけども、1つ目が、この校区割について、先ほど川村さんの話で言うと、教育割みたいな感じの方がイメージ分かりやすいかなと思う中で、一方で先日、子ども子育て会議というのに出席したのですが、その時に、まちづくりという観点で考えると、門真市は3つぐらいのエリアなのかなというイメージでおっしゃっていました。(仮称)水桜学園あたりが倉庫とかそういう商業集中エリアですかね。そして古川橋駅前と門真市駅前みたいな感じで、縦割りみたいな感じで言うと3つぐらいのエリアに分かれるのかなっていうイメージで。なので、まちづくりとは一方に関連があるのかなっていう風に思ったのと、

あと2つ目が、施設の役割という点でいくと、1小1中まで極端にしてしまうと、大規模災害とかが起きた時の避難先や備蓄という話になってくると、あまりにも門真市全体を賄うのは厳しいのかなという印象があるので、やはり3つ、4つぐらいが良いのかなという風に思ったのと、あとは先生とのリソースの問題ですよね。やはり先生が今成り手が少なくなっている話も聞きますけども、そういう意味でいくと、やはりあまりにも絞りすぎると、絞れば絞るほど先生も集めやすいってということもあるかもしれないですけど、一方で教育にも偏りが出てこないかなということもあるのかなという印象を話を聞いていて思いました。以上です。

#### 副会長

ありがとうございます。まちづくりの面から見たエリア分けみたいな提案もあったと思うんですけども、どういう視点からエリアを分けていくのかということで、また新しい提案だという風に思います。次の方をお願いします。

#### 委員

前回Aグループで極論ということで表現されて、今日もおさらいにありましたけども、僕自身はあんまり極論とは思ってない提案でした。必然かなっていうような印象で考えていました。子どもが減るという表現で、1小1中という風に今日はまとめられていましたが、僕の中では人数がいようがいまいが1小1中なんです。子どもの方に焦点が当たっていますけど、僕自身、親としては、この教職員不足の不安が何よりも大きいという風に感じています。学校に電話しても職員室に人がいない、電話に出ない。こういうことはやはりもう起こっているんで、そのためにもやはり学校数というのも減らしていかないと、子どもが減るというのももちろんですけど、その子どもたちが今後教職員になっていくための人材がもう減っているということなので、そういった意味で、受け皿を減らしていつて、ある程度のこう集中した人材集めとかにもやはり大きな繋がりになってくるんじゃないかっていうことで、1つというような提案はさせてもらったんですけど。もちろんその提案をさせていただくために、それまでの3回の会議で自分なりにレポートを作ってまとめていた経過があった中での最後の結論だったんですけど、そういった意味では、今回、具体的に教育委員会の方から示されたイメージですね、これが途中でやはりあるべきだなというのは非常にわかりやすかったので、その中で1つになってくのか、4つ程度で良いのかみたいなことは改めて自分でも考えさせられたなというような内容でした。以上です。

#### 副会長

ありがとうございます。教職員の方から見ての問題で1小1中という結論になった訳ですね。でも、1小1中というのは本当に極論には聞こえるかもしれませんが、でも、それがあったからですね、ここまでの間に何か、今の6中学校校区から1小1中のところの間に何か必要ではないかなということも皆さん気づかされたかされた訳で、すごく大きな提案だと思います。次の方をお願いします。

## 委員

私の場合、観点をちょっと変えて、6つや4つに分けたとしても、まず第1に落ちこぼれと言ったらおかしいけども、不登校とか、そういう子たちの居場所を、それだけの数と同じように作っていった方が良いと思います。去年か一昨年か中学生の自殺がありましたよね、そういう事件も多々起きてきています。その中で、子どもの見守りということに関しては、エリアが広がればそれだけの地域の人が見回りをする人数を多く作らないといけない。私は青少年指導員と薬物乱用も兼ねてやっていますが、その情報というのが収集できない。各学校に行ってお願ひするのだけでも、なかなか学校も忙しいからできないとか。そういう意味で、門真市の各自治会の役員さんなんかにも協力してもらわないといけない。そのために、教育委員会は学校も含めてやっぱり説明をして、それから、こういう風になりますよ、ああいう風にしたいと思いますということをやっているかといかないと、これ地域は賛同できないと思います。お前ら勝手にやっているのではないかというような形になった時は1番困る。それは何故かと言ったら、やはりさっきも言ったように、各神社があつて、それがどうのこうと、今まで校区割りは揉めてきているわけです。だから、そういうことを考えた時に、やはりもっとこうわかりやすく、これだけ人数が減っているのは皆分かっていますので、学校の統廃合はもう仕方ないと思っている人も皆さんいるんですけども、「子どもの」ということで門真市は1番弱いんです。各大阪府の青少年と色々な団体の研修会が8月18日にありましたけど、そういうので門真市はかなり弱いんです。そういう部分を考えて、教育委員会の方も我々審議する方も考えていかないと、校区割りをしたは良いが、その範囲で色々な子どもたちがいさかいを起こす、そういう状態になっているのが1番怖いんです。だから校区再編は私は賛成だけでも、それに対するフォローもある程度審議していかないと、先ほど誰かが言ったけど、古い考えどうのこうの言う方もおるんやけど、だけど、子どもたちに我々が注意喚起していかないと、ものすごい薬物、大麻が増えてます。小中学生でもかなり補導されている。第4次の時の参加させてもらったので、大体把握できてますんで、学割とかそういうのはもう皆さんにお任せして、私は子どもの居場所とか不登校児の駆け込み寺というようなところ、4つなら4つの中間点に作っていくとか、そういう方法も考えていった方が良いのではないかと思います。以上です。

## 副会長

ありがとうございます。もう1つの視点というんですかね、お困りのある子どもであったり、そういう視点も含めてこのエリアを考えていくという、こういう考え方であったという風に思います。また、それと共に人材の確保ですね、この辺が大変大きな課題にここも含めてそれも考えながらエリア分けをやっていきましょう。次お願いします。

## 委員

私は6年ぶりに学校現場に戻りまして、教育委員会から今学校現場に戻って感じているのは、先生も子どもたちもなんか行き詰まっているなということを感じています。どういうことかということ、子どもの身近な大人ということ、コロナ禍も

あって、保護者か学校の先生だけなんです。学校現場においても、教育活動を進める上で行事が精選されたこともあって、もう私たちがせなあかんって、先生方必死になってくれているんですね。そういうことで、なんか、せっかく子どものために先生方もやろうと思っているし、子どもたちも学校生活楽しくなったら良いなってなってきたのに、うまいこと回ってないところがあるんじゃないかなっていう風に思っているところがある。これは市の教育委員会も国の方も言っている、外部人材、外部資源を活用しながら学校運営してくださいねって言われているところが私は解決の糸口かなという風に思っています。その上で、今こういう校区割りを見せていただいて、非常に良いなという風に感じてまして、今学校現場でもそういう外部資源を門真小校区の地域の方、自治会の方や民生委員の方に一緒にやってくださいっていうことをお願いしながら協力も得ようとしてやっていますが、やはりお忙しい方が多い。今の校区の中だけで限るとそういう課題も見えてるところがあります。多くの大人の方に関わられながら子どもたちは成長するのかなっていうところも考えているので、そういった意味では、広く校区割をしていきながら、子どもたちにとって良い教育活動を考えていくというのは必要な時期に来ているのかなと考えています。こういう校区割の話は初めて聞いて、どれが良いかなというところまではまだないんですが、そういう色々協力していただける環境を学校にも作っていただける今が大きなチャンスなのかなと思って聞かせていただきました。

#### 副会長

ありがとうございます。これから先も本当にこの外部人材の活用ですかね、外部のリソースは大事になっていまして、私の方も別のコミュニティスクールという仕事をやっています、昨日も行ってたんですけども、例えば算数の九九ボランティアとか、そんなやっているとこあまりないですけども、小さなことで外部の力を入れることができる。私のいた学校でやってたんですけども、外部人材の活用というと非常に敷居が高いと思うんですけど、そんなことできる人は本当はエリアの中にたくさんいらっしゃる訳で、そういう方たちと一緒にやっていくということがとても大事だなと思っています。次の方お願いします。

#### 委員

前はAチームの1小1中というところでお話をさせていただいてたんですけど、先ほどのお話から、まだまだやっぱり将来的なこと、だいぶ先のお話になるっていうことから、4エリアに分けるというところが理想というか現実的なのかなという感じを受けました。私が住んでいるところが門真小学校区でして、ピンク色のところになると思うんですけど、30歳になる長女がいるんですけど、門真小学校から第三中学校で友達もたくさん作って学生生活を送ってたんですけど、やはり隣接した地域同士がひつつくってということの方が理想的なのかなと。小中だけで言うならば、他のところも考えたりするんですけど、子どもは幼稚園、保育園からその地域でやっぱり育っているってところからそれを考えると、どこの地域か分からないんですけど、門真小校区でいうとピンク色のところで統合するのが良いのかなと、少し具体的な内容になりますけど、そう感じ

ました。

#### 副会長

はい、ありがとうございました。大体ピンク色やったらなんかいけそうっていう感じですね。次の方お願いします。

#### 委員

前回、体調不良と教員採用試験に備えるため欠席させていただいたんですけど、ワークショップの話とか聞いていて、参加したかったなとすごく思いました。エリアについては、僕も4か所ぐらいのエリアに分けるのが良いのかなって聞いていて思いました。あと疑問に思ったのは、現状でも通うのが大変っていう方もいる中で、4エリアに分けた時に、やっぱ登下校の大変さだったり、スクールバスを活用するのも動き始めないといけないのかなというのを感じました。あと、4エリアに分けた時に、ピンクのエリアであれば周りが栄えているといいますか、道路があつたり京阪本線があつたりするのに対して、下の方を見ると、上の方に比べたら人数的にも少ないという中で、偏りが無いような、地域人材を使えるような体制も視野に入れられないといけないのかなっていうのが個人的に思いました。以上です。

#### 副会長

はい、ありがとうございます。将来的に4つとかになってきた時に、地域性は出ても良いと思いますけど、何かこう偏りが出ないように配慮できないかという意見でした。次の方お願いします。

#### 委員

市教委が提案してくださったのはすごく合理的で理にかなっているなという風には思います。やはり中学校の校長としては、先ほど標準といった学級数というのはすごく大事な数で、やはり1学年が3学級になるととても大変。というのは、先ほどの説明もあった通りに、9教科の先生が各学年に揃わないっていう状況にどうしてもなるんです。そして、週に1時間とかしか授業がない先生ですね、4教科の先生はまた学校に1人ずつっていうのが大体当然になってきた規模なんですけど、5教科の教師も各学年にいなくなるというのが、その3クラスか4クラスかというところにライン引きがされるので、そうなると、やはり校長としては、最低でも1学年4クラスの規模を維持してもらわないと、学校としての運営というのはすごく大変になるし、ということは結局子どもに響いてくるということになりますので、その数が維持できるためにも、最後絞って、もっと50年先とかだったら1小1中かもしれないけど、もうすぐの未来を考えるんだったら、この4校規模ぐらいにするのが当然かなという風には思いますし、そのために中学校を4つのするのだったら、そのための小学校っていう風に考えてもらった方が考えやすいですし、次の1歩が踏み出せるのかなという風には思っています。実際のところ、やはりその50年を過ぎて60年も経った小学校とか、すごく古くて、本当にメンテナンスも大変で、やっぱり数を絞ってでも、良い学校って

どうか、新しい学校を早く作ってもらって、子どもたちが良い環境で勉強できるのがすごく理想かなって思うので、ここで早く話をまとめていただいて、1歩でも次の適正配置になっていくのが理想かなと。今ここで決めていただいたところで、すぐにできる訳じゃなく、やっぱりこれが、それこそ出来上がるのは10年ぐらい先になってしまうんですから、みんなで一生懸命考えたことをしっかりベストな形、遠い将来を見越した形にしてもらえるのはすごくありがたいなって思います。

#### 副会長

ありがとうございました。最低4クラス無いと中学校としては教員の配置がなかなか難しい、しっかり教科として揃っていないと。先ほどの教育委員会の説明があったと思うが、これが1つの最低条件という風になっていくのではないかなと思います。次の方お願いします。

#### 委員

今まで出た話と同じような、重複することもあると思うんですけども、まず前回、私はAグループにいて、極論的に思われそうな案を思い切って出させていただいたので、それを受けて今回思い切って色々エリアを示してもらえたのかなというように、手前味噌になるか分かりませんが感じたんです。そういった中で、事務局からの提案を今日聞かせていただいて、まずは基本的な考え方という最初にあったこの考え方に戻って、子どもたちの、人とのつながり、地域の活性、まちづくりを視野に入れて、どう校区を分けるかとか考えるかということを中心に考えた時に、資料3ページの学校の再編をどの程度進めるかということで、生徒数に合わせたクラスがどれぐらい必要か、人との繋がりの中でどれぐらいのクラス数が必要かということが私は大事になってくると思います。それで、その生徒数に合わせて換算されたのが3から4かなというこの数字も私は教育の立場として妥当な筋だということを思い、まずそういうあたりに絞った上で、環境の中でバスを活用するのかというのは次の手段だと思うので、今回はそういう中で、私はこの3ページの資料に基づいた4または3のエリアを考えていくのが妥当かなと思っています。先ほど50年後とか将来の話が出たんですが、私はやっぱり50年後、将来の今の日本人の日本の子どもの数で想定しただけで、そうではなくて、もっとグローバル化していくと思うんです。既にもう多様な人たち、仕事の関係とかでは多国籍ですね、多くの国の方々が来ているように、日本もそうになっていくであろうし、そうならないといけないということも視野に入れると、あまり悲観的に子どもが減っているだけではない視野も持たないといけないのではないかなということを思っています。だから、そういうことも視野に入れたら、3から4を妥当と見るのもいいんじゃないかなと思って聞かせてもらいました。あとはしっかりと4エリアとかを作る時に、今度はおそらく横山先生が考えておられて、横山先生の手腕になってくると思いますが、学級数に合わせた学校を作るのではなくて、多様な校舎の使い方とか余裕を持った使い方とか、ただ学年の子ども勉強の部屋だけではないもののおそらくできていくだろうし、教室の広さも変更できるような工夫ができていく、そういった余裕を

持った、未来に向かった建物の構想というのを生かしていけば、ある程度のエリアを決めて、4とか決めても多様に使える校舎というような学校という作りをしてもらえたら素晴らしくなっていくかなということで、まちづくりも既に門真市は進んでいますしね。今色々開発も含めて変わってきているので、私は特にグローバル化していく門真市を期待したいなということを思っています。

#### 副会長

ありがとうございます。必ずしもずっと減っていく訳ではなくて、もしかしたらものすごく人口が増えている可能性も0ではないということと、それから、校舎についても、非常に多様な使い方ができるような、先ほど後藤委員も言われましたが、居場所があったりとか、あるいはそのまちづくりの観点とか含めたような、柔軟な使い方ができるようなものを考えていく方が良いんじゃないかなということでご意見をいただきました。

たくさん意見を出していただいたんですが、少し時間を使わせていただいて。司会をしながらなんですが、私は、もうこの一応4エリアということは、皆さんの方からほぼこれでいったら良いのではないかなということでご意見いただいたんですが、1つの提案としてですね、出していただいたものがとても面白くて、19歳以下の人口で考えると、大体10年後に今の19歳以下の人口の80パーセントぐらいになってしまうのです。つまり学校で言えば、中学校は5校に減らす必要があるということ。それから20年後、これがもう7割、日本中で70パーセントに減ってしまうのです。ということは、中学校は4校になると。それから40年後は、約50パーセントになってしまうので3校。それから、60年このまま進むと2校。そして、80年後か100年後か分かりませんが、おそらく80年後、もしも吉岡先生がおっしゃったみたいに減らなかつたらならないですけど、もしもこのまま日本の国が進んでいけば、80年後ぐらいには1校でもおかしくなくなってしまうという点で、20年後ということで、4校としても、提案としては80年後まで見越した提案をここで行えば大変大きな提案ではないかなという風に思います。いかがでしょうか。20年後でも自分が生きていくかどうかよく分からないんですけども、80年後って言われたら、ある意味そこまで責任は持たなくて良いとなるかもしれないですけど。

#### 委員

赤ちゃんでも亡くなっているかも分からんよ。

#### 副会長

今から生まれてくる子でも生きてない可能性はありますが、そこまで見越した上で、計画的に考えた1つのプランですよと。そしてこれを何年後かのこの審議会の委員さんがどんな風に判断して、なんかぐちゃぐちゃなこと考えたなって言われるかもしれないですけども、でも、すごく考えたなっていう風に、子どものために、そしてまた子どもの居場所のために考えたなっていうことがあったらなというか、感想を持ちました。

大変積極的にご発言いただいてありがとうございます。それでは、ここから

はオンラインの方にお聞きしたいと思います。横山先生聞こえますか。

会長

はい、聞こえます。委員の皆様のご意見は、とても面白くて具体性のあるご意見だと思います。これから個別な議論を進めていく中で大事なことというのは、前回ワークショップで小学校のことは議論できたんですけど、もっと中学校についても議論していかななくてはならないということ。実際、中学校でも生徒数が減っていつている学校がありますし、校舎が老朽化している学校についても検討していかなければならと思います。ということで、中学校の再編というのは前回のワークショップではあまり議論になっていないですし、これから具体的に考えていかななくてはいけないと思います。1つの小学校のエリアの中で、ある部分がこちらの中学校、ある部分が別の中学校というようなことも考える必要があると思います。そういう意味で、中学校の再編を考えるというのは非常に複雑というか、それだけ深く考えていかなければならないと思います。こういう場合に一番駄目なやり方は、数だけ決めて適当に学校を統合するというのが、やり方としては非常にまずい状況だと思います。目標としての数はあって良いんですけども、それに至るプロセスというのは、やはり1つ1つの現状やその状況をきちんと見ながら、その中でどういう組み合わせでいくかということ議論していくべきだと思います。合わせて、やはり地域とかまちづくりとか、こういう視点は新しい学校のキーワードになってくると思うので、こちらでも考えながらやっていければと思います。

副会長

ありがとうございました。新谷先生いかがでしょうか。

委員

基本的に4つぐらいのエリアで考えていくという方向になるのかなと思っています。ただ、今の日本の法律が教員定員数をこの規模でやっているということが大体の問題になっているので、そこはもう少し柔軟に変わればもっと子ども1人1人に丁寧な学校になっていくのだと思うんですけども、今のところはこの4つぐらいかなと。ただ、今オーストラリアの学校を見に来てるんですけども、例えば北欧でしたら、そもそも学校に行けないような子どもたちが学校のすぐ近くの地域の体育館とか公民館の1室を借りて、そこで2～3時間ぐらいのプログラムを受けてですね、学校に戻れそうだったらまた戻ってくるという様な、日本の適応指導教室みたいなものを警察とか色々な人が関わってコミュニティで運営していくみたいな形態の学校なんかもありますので、そういった準学校みたいな施設をある程度4つのエリアの中間地点ぐらいに置いていくことで、校区再編多く後でもこれまでの地域の繋がりを保てるようなハブ的な機能のあるそういう施設も合わせて考えていくと、コミュニティが広がって関係が薄まるということもなくなっていくのではないかと、そんなことを考えました。以上です。

副会長

ありがとうございました。まさに後藤委員の発言されていた内容と同じですね。そういうことで、まとめさせていただきましたので、これで事務局の方にお返ししたいと思います。

#### 事務局

ありがとうございます。私の方からも皆様のご意見をいただいていたの補足と言いますか、今回4つということで一旦皆様にもご提案をさせていただきましたが、うまく補足していただいたなということで、4をゴールということではなくて、議論の中にもあった通り、3にできる4校区、2にできる4校区みたいなことをやっぱりイメージしての4かなと思っています。そして、4にするにあたって、おそらく手順的には、まず5があつて4があつて、4のうちにも、次また3を見据えてみたいなことになっていくと思いますので、今日、ある程度、皆様の方で、4あたりでというようなご意見もいただきましたけれども、4をめざすという数の議論ではなくて、何度も言っていたように、先を見据えた、途中経過としての、一定の目安としての4というところは、元々の提案の趣旨としても入っておりますので、5、4、3ということを見据えた上で、4というところを提案したというところは補足としてご説明させていただきたいと思います。次回、6回目の議論になりますけれども、今日横山会長にも言っていたように、次はこの4のエリアのある程度の具体的な考え方と、小中学校を具体的に、4にした時にはどういう統合再編を考えることになるのか、ある程度具体的な現状も踏まえながら次の議論に入らせていただきたいと思いますという風に思っています。

横山会長、次の議論はワークショップにしようかどうかみたいな話もありましたけれども、何か今日の議論を聞いて、お考えはありますでしょうか。

#### 会長

中学校の再編ということで、もう少し大きい全体の構成を考えるということで、やっぱりご意見を出していただきますし、ワークショップが良いかなと思いますけれども。

#### 委員

ワークショップで良いと思います。

#### 会長

ありがとうございます。事務局としてはいかがですか。

#### 事務局

わかりました。そうしましたら、今日の議論を踏まえて、また資料作り、こちらでもまとめていきますので、それと合わせて会長とまたご相談させていただきたいと思いますが、ワークショップ形式を前提にということで。今日は終わっていただければ良いかなと思います。

会長

宜しく申し上げます。

事務局

事務局からも特段ありませんので、西副会長、もし良ければこれで終わっていただければと思います。

委員

1つ聞きたいことがあるんですけど、再編についての質問で、最終的に4つという話にはなりましたが、やっぱり段階を経ないといけないとは思っていて、その時に、例えば今もうその5年、10年待ったなしで、もう単学級だけになってしまう学校とかあるじゃないですか。そういうのを、箱物は建てないけど、校舎の空き教室とか、仮設校舎なりを建てながら、こことここはちょっと一緒にしながら、ゆくゆくはしっかりと校舎で一緒になるけど、小学校でまずここで、中学校も10年先待った無しだから、とりあえずは中学校、どっちかにグラウンド残して、こっちは校舎みたいな形で、中学校は中学校でも小学校とはまた別で、中学校も学園みたいなものを同時進行で考えていくのかいかないのか、それによっても少し考え方がまた違うのかなと思ったので、そこだけ知りたいなと思います。

副会長

次回以降の議論の中で入ってくる内容と思うんですけども、今でお答えできる範囲としてはどうでしょうか。

事務局

はい、ありがとうございます。今回のこの再編議論の教育委員会としてのスタンスとしては、校舎を新しく建てることで今の時代に合った教育にも対応していきたいという考え方はあるんですけども、今ここで議論していただいている通り、建物が建たないと統合できないということになると、やはりどうしても時間が掛かり過ぎるというのは私たちも思っています。イメージしていただいているのは、すでに大規模改修した学校もあるし、校舎を建てている間も既存の学校で先に統合することもできるじゃないかということだと思います。急がないといけないという意味では、その可能性は私たちもありだと思っています。ただ、保護者とか地域の方にとっては、急に来年統合とかになると、やはり大きなハレーションもあるので、周知期間はしっかりと取らせていただくということは前提にはなりますけれども、その上で、校舎は後々付いてくる前提で、できるところから、今の校舎を活用した統合案というのはこの議論の中で出していただいて、もっとスピード感を持って出すんだということを教育委員会としても進めていくということは可能だということの良いと思います。

副会長

はい、そういう見通しでいきたいと思います。他に何かありますでしょうか。

委員

この会議があと何回でスケジュールの補正みたいのはないですか。毎回臨む時に今回何するんだらうというのが少しぼんやりしていて、気持ち的にはもっと前乗りしてたくさん考えていきたいし、勿体ないと思っているので、その辺りがもう少しイメージしていただけるとありがたいなと思っています。

会長

今おっしゃったこと、とても大切だと思います。今回の審議会の全体の方向性はほぼ今日の議論で定まったと思いますので、残り3回の会議で、各回でどういう議論をしていくかということに関しては事前に示した方が良いのではないかと思います。

副会長

では事務局の方でも次回の予定だけではなくて、残りの回数で掘り上げていただいて。

事務局

わかりました。

副会長

他にありますでしょうか。

委員

私、資源の話をしたんですけど、内部資源もあると思っています、単純に学校数が減ったら、門真市に割り当てられている教育費、国とか府の補助とかもそのまま学校数が減るのであれば、1校あたり配当のお金は増えますよね。それって子どもたちに還元できると思うので、そういう風な4つのエリアに分けてやっていくというのは賛成なんですけども、それが事実かどうか私の方で知らないので、そのあたりを教えていただけたら。学校が減ることによって補助金も減って、結局1校あたりの額は変わらないという風になってしまうと、また違う視点が出てくるかなと思いますので、その辺りも教えていただけるとありがたいです。

副会長

この辺はどうなんでしょうね、実際のところ。

事務局

分かりやすいところでいくと、市の予算、各学校に毎年配当だったりとか、修繕含めて、ある程度教育にかけていただける予算の配分とかというのは、学校が半分になったから予算が半分ということはないと思っています。その辺りは1校あたりに配分できる金額がある程度大きくなる部分はあるかなと思います。それ

から国の補助金とか府の交付金みたいなところでいくと、やっぱりその種類によるというのが正直なところで、1校1校に対しての上限額というような補助金であれば、学校数が減ってもその学校の上限って変わらないので、一緒のものもあれば、ある程度枠として門真市としていくらか、国の何々省の予算がいくらかというものであれば、申請する学校が少なくなれば割り当てが増えるっていうのは性質上出てきますので、一概には言えないですけども、教育委員会の提案にもあった通り、ある程度、学校数が多すぎると、分散してる状況というのは間違いなくあって、ある程度の適正な規模になれば、適正に割り振りができるというようなところは あるのかなという風に思っています。なので、統合すればその学校に割り当てられる金額が増えるかっていう簡単なところではないのかなとは思いますが。分散しているところがしっかりと集約できるというところはあるかなという風には思っています。

副会長

はい、ありがとうございます。他はないでしょうか。では会長、最後に締めていただいて、終わらせていただいて良いでしょうか。

会長

新しい学校づくりの方向性がある程度決まった良い会だったと思います。次回、第6回目も宜しく願いいたします。以上です。ありがとうございました。